



学校教育目標

自ら求めて学ぶ心豊かな生徒の育成

三豊市立高瀬中学校

〒767-0011

三豊市高瀬町下勝間2725番地1

TEL 0875-72-3161

FAX 0875-73-6188

文責 長谷川 忍

心温まる物語

私が最近の通勤途中に目にした、とても「心温まる物語」を皆さんに共有したいと思います。

ある朝のことです。小学生が集団登校で横断歩道を渡ろうとしていました。私が車を止めて待っていると、班長さんがしっかりと頭を下げてお礼をしてくれました。それだけでなく、列の最後尾を歩いていた一年生の子まで、渡り終えた後にわざわざ振り返り、小さな手と体をいっぱい使って「ありがとうございました」と頭を下げてくれたのです。その一生懸命な姿に、朝からとても優しい気持ちになりました。

また別の日の雨の中、自転車で登校する高校生の姿が目に入りました。その生徒は、道端に落ちている空き缶やゴミを見つけると、ずっと自転車を止め、雨に濡れながらも持っていた袋へ静かに拾い集めていたのです。誰も見ていないかもしれない場面でのその善意と行動力に、胸が熱くなりました。

そして何より嬉しいのは、わが校の中学生の姿です。毎朝、正門前の横断歩道を渡る際、止まってくれた自動車に対して、渡り終えた後に振り返り、丁寧に頭を下げる生徒がたくさんいます。自分を優先してくれた相手へ自然と感謝を表現できる姿は、見ていて本当に誇らしく、晴れやかな気持ちになります。

挨拶やマナー、誰かを思いやる行動は、決して「見せるため」に行うものではありません。けれど、皆さんのその一つひとつの温かい行動は、確実に周りの大人や地域の方々の心に届いています。「〇〇中学校の生徒さんは素晴らしいね」という声は、地域全体が学校を応援したくなる大きな力へとつながっています。

感謝と笑顔😊は、伝染するものです。相手を思いやり、行動に移せる人が一人でも増えれば、私たちの学校も地域も、もっと温かく素晴らしい場所になります。これからも、「感謝の気持ちを言葉と行動にできる」皆さんであってください。

イグノーベル賞

皆さんは「イグノーベル賞」を知っていますか？

本家のノーベル賞とは少し違い、「人々を笑わせ、そして考えさせる研究」に贈られる世界的な賞です。

今年も嬉しいニュースがありました。なんと日本人が20年連続で受賞という快挙を達成したのです。これまでも「バナナの皮はなぜ滑るのか」「ウシに縞模様を描くとハエに刺されにくくなるか」など、一見「そんなこと本気で調べるの？」と思えるユニークな研究が選ばれています。

2026年度のイグノーベル医学賞は、海野名誉教授の「正しい鼻のかみかた」の研究が選ばれました。片方の小鼻を指でしっかりと押さえ、強くゆっくりと息を吐き出すのが最も効果的だと科学的に証明しました。

しかし、受賞者たちはいたって真面目です。「なぜだろう？」という素朴な疑問を突き詰め、工夫を重ねて実験し、新しい発見へと繋げています。笑ってしまうような発想が、実は将来の画期的な技術や病気の治療に役立つことも少なくありません。

自分の好きなことや「なんで？」と感じる身近な疑問には、大切な将来のヒントが隠れています。「変だな」「面白いな」と思ったら、ぜひ調べて工夫してみてください。

勉強や進路選びも同じです。あなたのその「ちょっとした好奇心」が、将来世界を驚かせる大きな一歩になるかもしれません。

IG NOBEL PRIZE: OPEN USE LOGOS AND SYMBOLS

